

遊休農地対策の取組み

平群町農業委員会

1. 平群町の農業の概要

平群町は奈良盆地の西北部の位置にあり、西は標高400mの信貴・生駒山系で大阪府と接しており、小倉百人一首でも有名な竜田川が町の中央を南流する面積23.9km²、人口約2万人の自然豊かな町です。また、この地は古代の有力な豪族・平群氏が本拠地としたところであり、聖徳太子の創建と伝えられ国宝信貴山縁起絵巻のある信貴山朝護孫子寺や、役行者の修験地で知られている鳴川千光寺、長屋王の墓など数多くの歴史的遺産が息づいています。

町の主幹産業は農業であり、町西部の山麓部では小ギク、バラ、枝ものなどの花き花木類やブドウ栽培が、竜田川の東側平坦部ではトマト、メロン、イチゴなどの果菜類が盛んに栽培されています。販売農家に占める専業農家率は34.9%と奈良県下でも特に高く、活気のある農業が展開されています。

2. 農業委員会の取組み

①具体的な取組み内容

平群町農業委員会では、遊休農地解消モデル事業として行政と連携をとり新たな特産物づくりを検討してきました。

平成18年度より遊休農地を活用しサツマイモを栽培してオリジナル焼酎の製造販売計画を立て、県内の酒造業者と提携して芋焼酎「里の恵」を開発しました。まろやかで芳醇な味わいから評判もよく、19年度生産分は完売し、20年度生産分も順調な売れ行きとなっています。

また、20年度から協力農家を募り、さつま芋の栽培面積を増やして21年度には作付面積が倍増しました。

		H19	H20	H21（見込み）
遊 休 農 地 解 消 面 積	モ デ ル 事 業	5700㎡	5100㎡	6000㎡
	生 産 農 家	0㎡	2900㎡	6800㎡
	合 計	5700㎡	8000㎡	12800㎡
さ つ ま 芋 収 穫 量	モ デ ル 事 業	5.8 t	6.1 t	10.8 t
	生 産 農 家	0.0 t	4.9 t	12.2 t
	合 計	5.8 t	11 t	23.0 t
焼 酎 720ml	25 度	2000本	4000本	5000本
	40 度	1200本	1800本	2500本
	合 計	3200本	5800本	7500本
そ の 他 加 工 品	芋納豆・甘露煮・干し芋等	0	1.9 t	2 t
給 食 セ ン タ ー	学校給食用食材	100kg	30kg	50kg

②取り組みに当たっての課題及び、対策方法

1) 遊休農地解消の面積拡大

さつま芋の収穫、洗浄・ひげ根取り作業は、手作業のため負担が大きく、遊休農地解消面積を拡大していくには、生産者の農作業省力化を図っていく必要があり、平群町に適した機械化をどのように導入し、又農業者に普及していくかが課題といえる。

2) 新たな地域ブランド開発と販売ルートの確立

加工用さつま芋を主に焼酎用として出荷しているが、生産面積を拡大していくためには、新たな加工品の開発と販売ルートを確立し、さつま芋を有利販売できるようにしていくかが課題である。

また、遊休農地解消に、行政と連携を取りながら新たな作物を研究し、平群町の農業振興と地域の活性化に繋がるよう今後も積極的に推進していかなければならない。

1. 金時さつま芋の栽培



作付け風景（5月）



収穫風景（10月）

2. 加工品



へぐりの芋焼酎「里の恵み」
（左：40度 右：25度）



さつま芋の甘露煮



干し芋



さつま芋甘納豆